



- 登校・下校の交通マナーの指導
  - ① 徒歩通学における歩行マナー
  - ② 自転車利用時の安全講習及び乗車マナー
  - ③ バス・電車など公共交通機関の利用マナー
- 思いやりの心の育成
  - ① 友達づくり
  - ② いじめの撤廃
  - ③ 美しい言葉遣い
  - ④ コンピュータ・携帯電話のネチケットの指導
  - ⑤ 席譲り運動の強化
  - ⑥ 机・椅子・校舎、教科書・ノートなど物を大切にする心の育成
  - ⑦ ECO 指導（電気、水道、冷暖房、プリントなど）
- 美しい環境づくり
  - ① 落ち着いた環境づくり  
（きれいな教室・きれいな黒板・きれいな机・明るい教室）
  - ② 教室・廊下・トイレなどの清掃の徹底
  - ③ きれいな教室・きれいな黒板・きれいな机

[3] 学力の習得・進学実績の向上

- 教員の資質向上及び自己研鑽
- 「分かりやすい授業」の展開
  - ① 授業の充実と創意工夫
  - ② 同一教科内及び教科間での密なる連携
  - ③ 教材・サブ教材の精選
  - ④ 習熟度別授業の検討
    - 英数コースは3年生で国数英、1・2年生で国数実施
    - 6年一貫コースは選抜・進学に分かれて国数英理社で実施
  - ⑤ 「吹きこぼれ」「落ちこぼれ」の指導対策
  - ⑥ 各種検定試験取得の勧めとその指導
    - 英語検定・漢字検定・数学検定
- 3つのコースの特徴の明確化
  - 英数（3年コース）⇒私立・公立のトップ高校への進学を目指すコース  
（勉強とクラブの活動の両立を目指す）  
各種講習の実施。早朝テスト・習熟度別授業の実施

- 英数発展（3年コース）⇒私立・国公立の難関高校への進学を目指すコース  
授業の進捗と深度。各種講習の実施。  
習熟度別授業の実施。日々の終礼時の小テスト。  
3年時の土曜日6限授業実施。
- 中高一貫（6年コース）⇒社会で活躍できる人材の育成を目指すコース  
（有名国立・私立大学への進学を経て、目標の  
会社で活躍する）  
選抜・進学に分かれての習熟度別授業。  
社会人による講座。自分プロジェクト・社会見  
学・勉強合宿・放課後の自学自習実施

[4] 心身鍛錬と好ましい人間関係の育成

- クラブ活動への参加奨励と活動の活性化  
運動部10クラブ、文化部9クラブ
- 多彩な学校行事の実施  
体育会・文化祭・宿泊研修・修学旅行・耐寒OLなど各種行事の目的の  
再確認。

[5] 中高6年一貫コースの目的と理念の具体的な実践

- ① 自分を知り社会を知る
- ② 規律と社会性の育成
- ③ コミュニケーション力を身につける
- ④ 確かな学力の獲得⇒完全1日完結型を目指す

[6] 入学試験制度及び生徒募集活動の見直しと課題検討。

- ① 生徒募集対策の見直しと課題検討  
校外入試説明会・塾訪問・パンフ・資料集など。
- ② 広報媒介の検討（HP、新聞・ちらし・ポスター、各種雑誌など）
- ③ 入学試験関係（試験日程、プレテスト、転科制度、編入制度、出願期間、合  
否判定）

[7] 高校・小学校との連携強化

内部高校・小学校との連携を強化し、内部進学数の増加に務める。

- ① 高校との連携⇒6年一貫コースやクラブ活動を軸に内部進学指導にも力を注  
ぐ。
- ② 小学校との連携⇒公開授業や体験授業の実施、社会人講座の参加案内など。

## 教員による学校評価(自己評価)の集計結果と分析及び対策

四條畷学園中学校

平成23年度に実施した教員による学校評価(自己評価)の結果を報告します。

### □ 自己評価の実施について

- (1) 実施時期 平成24年3月
- (2) 調査対象 中学校本務教員
- (3) 評価項目 教育活動全般及び学校運営に係わる項目について自己評価を実施
- (4) 評価方法 各項目について5段階評価で実施
  - 5: その通りである(達成度 80~100%)
  - 4: どちらかといえばその通りである(達成度 60~79%)
  - 3: どちらともいえない(達成度 40~59%)
  - 2: どちらかといえば違う(達成度 20~39%)
  - 1: 全く違う(達成度 0~19%)

### □ 評価の重点目標

- 建学の精神 『報恩感謝』
- 教育方針 個性の尊重・明朗と自主・実行から学べ・礼儀と品性
- 平成23年度 中学校の目標抜粋
  - [1] 基本的な生活習慣の育成⇒教員の同一歩調・自らの実践
    - ①挨拶 ②時間厳守 ③言葉遣い ④遅刻しない ⑤環境美化
  - [2] 学力の習得・向上⇒目標高校への進学実績の向上
    - ① 分かりやすい授業 ②コースの特性重視 ③習熟度別授業の充実
    - ④ 遅進生徒の補習の充実 ⑤自己研鑽 ⑥研究授業の実施
  - [3] 心身の鍛錬と好ましい人間関係の育成⇒共生の心を育む
    - ① 多彩な学校行事の目的確認と充実 ②クラブ活動の活性化
  - [4] 中高6年一貫コースの目的と理念の具体的な実践
  - [5] 入試制度及び生徒募集活動の見直し
  - [6] 小学校・高校との連携強化と内部進学数の増加に努める。

### □ 概評

学校目標に沿い、教員がどのように努力しどの程度達成できたかを自己評価した。調査結果を分析して、そこから見えてきた新たな課題を、今後の学校改革・教育改善の目標としてしっかりと取り組んでいきたい。

生徒一人ひとりを大切にしながら、教員相互の連携・協力をより密にとりながら、今後さらに研鑽を重ね教育力の向上を図り、より良い教育の実践を目指す。

□ 評価の集計と分析

[1]学校運営

評価の観点	評価項目	設問	23年度 評価 平均値	22年度 評価 平均値	21年度 評価 平均値
私学の独自性	建学の精神について	(1)建学の精神『報恩感謝・尊敬される人間の育成』を、教職員が良く理解し、それに基づいて教育を実践している。	4.2 ×	4.4 ○	4.3
	教育方針について	(2)教育方針『個性の尊重・実行から学べ・明朗と自主』を、教職員が良く理解し、それに基づいて教育を実践している。	4.3	4.4 ○	4.4
教育課程	学習指導要領の 対応状況	(3)教育課程の編成は学習指導要領に沿っている。	4.2	4.2	4.1
	教科の教育計画に ついて	(4)年間を通じた教育計画を教科別に立て、シラバスに沿って指導している。	4.4	4.3 ○	4.4
教職員連携	教員・教科間の 連携状況	(5)教育課題について教員間で日常的によく話し合っ て、教育活動が行なわれている。	4.4	4.3 ○	4.0
	会議の有効性	(6)職員会議・学年会議をはじめ各種会議・委員会が、 情報交換と課題検討の場として有効かつ効率的に機能 している。	3.9	3.8 △	3.4
財務関係	教育の充実	(7)私学経営の財務状況に関心を持ち、学園の発展を 目指して教育活動の充実を図っている。	3.7 ×	4.3 ○	4.1
	経費節減に関する 意識	(8)経費の節減や教育活動と財務との均衡のあり方を考 えて、学校経営を行なっている。	3.9 ×	4.1	4.0
情報公開	ホームページの 活用状況	(9)学校ホームページの公開掲示板等で可能な範囲の 教育活動や情報を公開している。	4.2 ○	4.0	3.7
危機管理	危機管理対応状況	(10)危機管理マニュアルを作成し非常時の役割を分担 している。	4.0 ×	4.2	4.0
		(11)緊急時に備え、警察、消防との連携・訓練等の学 校安全対策は充分にとっている。	4.1	4.0	4.1

《学校運営に関する分析⇒(1)～(11)の項目》

学校運営に関する評価については、設問中の3項目が当面の目標である4.3以上の評価である。また昨年度と比べ3項目の評価が上がり努力の成果が見られた。ただ、項目(1)(7)(8)(10)に関しては評価が下がっている。財務関係と危機管理は早急に改善の必要がある。

[2] 教育内容

評価の観点	評価項目	設問	23年度 評価 平均値	22年度 評価 平均値	21年度 評価 平均値
教科指導	学習指導	(12)授業に創意工夫を行い、分かりやすい授業を行っている。	4.3 ×	4.5 ○	4.6
	授業環境について	(13)生徒の学習意欲を高め、学力を向上させる授業を実践している。	4.4	4.4 ○	4.4
		(14)授業を受ける基本的なマナー・態度を身につけさせ、落ち着いた雰囲気指導している。	4.6	4.5 ○	4.6
情報教育	情報能力育成	(15)生徒の情報活用能力の育成を図っている。	4.1	4.2	4.0
	情報モラル教育	(16)情報発信に伴う責任など、情報モラルの教育に取り組んでいる。	4.1	4.0	4.4
人権教育	人権教育体制	(17)周囲の人を尊重し、よりよい人間関係を築いていく態度を養う教育を実践している。	4.3 ×	4.5 ○	4.5
		(18)人権に係わる様々な問題に関心を持ち、人権意識を高める教育を実践している。	4.4	4.5 ○	4.4
環境教育	実践的態度の育成	(19)自然を大切にすると環境を保全しようとする態度を育てている。	4.0 ×	4.2	4.4
保健教育	保健・健康に関する指導	(20)心身共に健康で安全な生活を送るための行動や態度を養っている。	3.9 ×	4.5 ○	4.5
生徒会活動	生徒会活動支援状況	(21)文化祭・体育会等の生徒会活動を通じて、生徒が主体的に活動できるよう学校全体で支援している。	4.5	4.6 ○	4.5
その他	読書推進	(22)読書タイムの実施・図書館の利用など読書指導に取り組んでいる。	4.6	4.5 ○	4.3
	国際理解	(23)他国の歴史・文化の理解・異文化交流など国際理解に対する教育的活動を取り入れている。	4.2	4.1	4.4

《教育内容に関する分析⇒(12)～(23)の項目》

教育内容に関する評価については、設問中の7項目で当面の目標4.3以上の評価である。

ここでは、読書タイムや生徒会活動・授業を受ける基本的なマナーの評価が高く、次いで人権教育の項目(18)の評価が続く。反して心身共に健康で安全な生活の項目(20)の評価が一番低い。

最も基本的事項なので早急に対策が必要である。

[3] 生徒指導・支援

評価の観点	評価項目	設問	23年度 評価 平均値	22年度 評価 平均値	21年度評 価 平均値
生徒指導 生徒支援	生活指導について	(24)生活の基本である時間を守るという指導を行なっている。	4.4 ×	4.6 ○	4.6
		(25)挨拶をはじめとして、礼儀を重んじる生活態度を養う指導を行なっている。	4.7	4.6 ○	4.6
		(26)服装・頭髪・持ち物等の生活面での規則・ルールを理解させ、守らせている。	4.4	4.5 ○	4.5
		(27)生徒に清掃・校内美化に取り組むよう指導している。	4.6	4.7 ○	4.5
	家庭との連携状況	(28)家庭と学校との協力と連携のもとに生徒指導を行なっている。	4.6	4.6 ○	4.5
	学習支援について	(29)学習の遅れている生徒への支援を個々の生徒の実態に合わせて行なっている。	4.0	4.0	4.0
	カウンセリング マインド	(30)生徒の抱えている問題に対して、一人ひとりを大切にしたいきめ細かい相談・支援を行なっている。	4.4	4.4 ○	4.3
	進路指導について	(31)生徒の将来を見据え、進路情報の提供や進路ガイダンスなどの進路指導を実施している。	4.4	4.4 ○	4.3
		(32)個々の生徒に応じた希望・目標を実現させるよう、進路相談や進路支援を行なっている。	4.6	4.5 ○	4.3
	内部進学について	(33)学園高校や学園短大・大学への内部進学を希望する生徒には、積極的に支援している。	4.4 ○	4.2	4.3

《生徒指導・支援に関する分析⇒(24)～(33)の項目》

生徒指導・支援に関する評価については、10の設問があるが全体的に高評価であり、4.3を下回る項目は1つのみである。それぞれ個人の学年の各部の努力が伺われる。

番評価が一番低い学習支援については、今後に向けての大きな課題であろう。

[4] 教員研修・資質向上

評価の観点	評価項目	設問	23 年度 評価 平均値	22 年度 評価 平均値	21 年度評 価 平均値
教員研修	教員の資質向上について	(34) 教員間で授業内容を評価したり、生徒指導のあり方等、指導方法について意見交換を行う機会がある。	3.8 ×	4.0	3.8
	校内研修	(35) 教育問題や生徒理解、人権教育等、効果的な校内研修を立案し、計画的に教職員に研修を実施している。	3.8 ×	4.2	3.7
	研修成果の共有状況	(36) 研修・研究に参加した成果を、他の教員に伝えて情報を共有する体制が整理されている。	3.4 ×	3.8 △	3.5
	模範意識	(37) 教師自らが模範を示している。	4.0		

《教員研修・資質向上に関する分析⇒(34)～(36)の項目》

教員研修・資質向上に関する評価については、3項目すべてに評価が低く、その改善に努力した成果が見えない。今後より一層の強化に努めなければならない。特に、個々の教員が研修に参加した成果の共有も不十分であり、経験交流の場を設け、学び合う環境作りを考えたい。

《分析と対策の総括》

- [1] 評価項目37の平均評価は4.2で、昨年の平均4.3を少しだけ下回った。  
しかしながら、平均評価を下回る項目が15項目あること、評価3.8の項目が2項目ある点に着目して次年度に向けて強化を図りたい。
- [2] 学校運営の項目では、会議の有効性の対策が急務である。  
財務関係と危機管理は早急に改善の必要がある。また、各種会議が情報交換や課題検討の場として有効かつ効率的に機能すべく考えたい。
- [3] 教育内容の項目は、今年度は昨年度を下回っている項目が7項目もあり、教育内容の充実に力を注ぎたい。
- [4] 生徒指導・支援の項目もほぼ目標を達成出来た。特に、生活指導は項目すべてで評価が高いが、次年度は学習支援の強化を検討・進めていきたい。
- [5] 教員研修・資質向上の項目は、すべての項目で昨年度を下回っており、次年度の強化第1ポイントであろう。教員の資質向上のため、教員間で授業内容を評価したり、指導方法など意見交換をすると共に、校内外研修の実施や参加、さらには研修・研究に参加した成果を伝え、情報の共有する体制を確立しなければならない。